

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4672700129
法人名	有限会社 圭友
事業所名	高齢者グループホーム 花心家
訪問調査日	平成 20年7月2日
評価確定日	平成 20年8月2日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4672700129
法人名	有限会社 圭友
事業所名	高齢者グループホーム 花心家
所在地 (電話番号)	南九州市川辺町下山田1726番地1 (電 話) 0993-57-2113
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成 20年 7月 2日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤	5人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000・30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (128,000・140,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1月当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	児玉病院、米澤内科クリニック、かわなべ共立内科、川路歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、のどかな農村地帯に位置し、自然を味わいながらのんびりと静かに過ごせる環境である。開設前に説明会を実施したことにより地域住民の理解も得られ、互いに支え合い共存することができている。必要以上の段差解消や手摺り設置は行わず、昔の民家をほぼそのままの状態で行うことで、入居者自ら壁や家具を支えとしたり、段差を見なくても自然に足が上がるなど、残存機能を活かした生活が無理なく行われている。管理者は理想と熱意を抱き、職員とともに質の高いホームを目指して懸命に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部3)
	【市との連携】グループホーム交流会を通し、行政と現場との情報交換が頻回に行われるよう改善されている。【運営に関する家族等意見の反映】遠方のご家族からの意見や要望等をどのように表出していただくか検討中である。【職員を育てる取り組み】外部研修機会を増やしたり、職員に応じた研修機会を設定している。【重度化や終末期に向けた方針の共有】や【災害対策】についても体制強化や改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部3)
	自己評価および外部評価については、日常のケアを振り返るとともに、第三者の目で新たな気づきを得る機会と捉えている。管理者と職員がともに取り組むことで、より良いホームづくりに役立てようと努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域やホームが抱える問題に沿ってテーマを決め、計画的に会議を行っている。関係者間で活発に意見を交わしており、サービス向上に活かされている。管理者は、運営推進会議を地域に情報発信できる場にしたいと考えており、その活用に積極的に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者は、ご家族との間に顔見知りの関係が築けていないと意見をいただけないと考え、職員が積極的に家族との関わりを持つために、担当制を導入したり面会簿の記入を職員に行わせることで、ご家族との接触の機会を増やすなど工夫している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設に当たり、グループホームについての説明会を開催して地域の理解を得ている。日常的に地域の清掃や草刈り、準PTA活動、その他の各種地域行事に参加している。近隣の方が収穫した野菜を届けてくれるなど、地元の人々との交流が盛んである。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の方々と一緒に・・・」という文言を盛り込み、地域との関わりを意識した独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員としての心得や理念の実践のための取り組みを記した「えがお、ありがとう、いっしょ」を管理者が作成し、目に付くところに掲示して日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設に当たり、グループホームについての説明会を開催して地域の理解を得ている。日常的に地域の清掃や草刈り、準PTA活動、その他の各種地域行事に参加している。近隣の方が収穫した野菜を届けてくれるなど、地元の人々との交流が盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、自らの日常のケアを振り返る機会とし、第三者からの目を見た外部評価による新たな気づきとともにサービスの質向上の機会として捉え、管理者を中心に職員全員で取り組むことで、より良いホームづくりに努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域やホームが抱える問題に沿ってテーマを決め、計画的に会議を行っている。関係者間で活発に意見を交わしており、サービス向上に活かされている。管理者は、運営推進会議を地域に情報発信できる場にしたいたいと考えており、その活用に積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の同業者交流会を設けることを、市の担当者に積極的に働きかけた結果、2～3ヶ月毎に、地域のグループホームと市の担当者が参加する勉強会や情報交換会を開催しており、サービスの質向上に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	花心家通信に、入居者の暮らしぶりや職員の異動等について写真を添えて掲載し、2ヶ月に1回ご家族へ発送している。その際、運営推進会議の議事録や金銭出納帳の写しおよび領収書を同封して報告している。面会時には必ず声を掛けて、入居者の暮らしぶりや健康状態の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、ご家族との間に顔見知りの関係が築けていないと意見をいただけないと考え、職員が積極的に家族との関わりを持つために、担当制を導入したり面会簿の記入を職員に行わせることで、ご家族との接触の機会を増やすなど工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入る際は、異動前から時折お茶のみに来てもらい、顔馴染の関係を築けるように配慮している。入職後は、しばらくベテランとともに行動し、ケアのコツや入居者の特徴など、マニュアルでは分からない部分を学び、入居者に不安を抱かせないよう工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの能力や経験に応じて、個々それぞれに年間目標を立て、達成できるよう必要な研修や勉強会への参加、情報提供等を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩半島地区のグループホーム連絡協議会や市内のグループホーム交流会を通じて、管理者及び職員がそれぞれに交流機会を持っている。また、現在市内のグループホーム間で職員の相互訪問を計画中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学は、いつでも誰でも受け入れている。入居を予定している方については、ご家族とともに事前に見学してホームの雰囲気をみて、少しずつ馴染んでいただけるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者一人ひとりを「人生の先輩」として敬い、様々なことを学ぶ姿勢で接するよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者は、入居者の行動に対して「なぜこうするのか?」、生活歴や習慣等からその理由を考えた上で対応することを職員に指導している。困難な方に対しては、そばにいて、タッチすることでコミュニケーションを図り、入居者の気持ちを把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成にあたっては、朝の申し送りの際やミーティング時に、担当職員や他の職員より計画内容についての意見を聞いている。また、ご家族からも面会時や電話連絡時に意見をうかがうなど、それぞれの意見を考慮して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直し、必要に応じて計画の変更を行っている。ご家族や職員がわかりやすいように、変更点を赤字や青字で記すなどの工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や訪問看護・訪問診療の受け入れ、医療機関との情報共有、認知症デイケアの利用支援など柔軟に支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居者やご家族の希望を尊重している。また、身体状態の変化により、話し合いの上でかかりつけ医の変更を行うなど、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者およびご家族に、現段階で可能なホームとしての対応を説明し、主治医の意見をうかがいながら、今後の方針についての意思確認を行っている。今年度より看護師を配置し、医療連携強化や重度化に対するホームの体制づくりを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけるような言動が無いように、注意を払いながら入居者に接することを常に心掛けている。記録類等の個人情報については、鍵付きの棚で適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしさ」についての勉強会や管理者指導を頻繁に行い、入居者一人ひとりの個性を大切にしている。ホームとしての1日の流れはあるが、その中にも入居者それぞれの意向が尊重されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者とともに献立を考えながら、折々にいただいた地元の野菜を使って料理している。食事の準備や片付けの際、職員と一緒に積極的に取り組む入居者も居られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に合わせて曜日や時間を決め、週3回は入浴を楽しめるように支援している。また、予定に無い場合も、入居者の希望があればいつでも入浴できるように準備している。		
。					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意なことや趣味、興味のあることなどをアセスメントや普段の生活の中で把握しており、それぞれの方が活躍できるような場面づくりを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、買い物や散歩に出かけ、地元の方々と交流の機会を持ったり、ホーム周辺の田畑を眺めるなどして季節を感じるできるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には鍵をかけず、チャイムを設置することで人の出入りが分かるようにしている。運営推進会議でも協議することで、警察や地域の方々の理解と協力が得られており、入居者が外に出て行かれても、気がついた方からすぐに連絡をいただいている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時の対策等について、地区消防組合や行政の担当者および地区の代表者と、運営推進会議において綿密に協議している。いざという時の第1避難場所を道路向かいの民家をお願いするなど、地域の協力を得ながら、ホームとしても、定期的な避難訓練を実施し、非常持ち出し品(食料・衣料・生活用品等)の準備などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューについては、母体病院の栄養士が内容を確認し、必要な指導を行っている。実際にホームで調理して指導を行うこともある。食事や水分摂取量は、毎日個別にチェックして適切に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中の大半を、リビングで過ごされる入居者がほとんどである。ホーム内は風通しが良く、自然の香りで季節を感じることができる。入居者の残存機能の維持につながるように、段差はあえて取り除かず無駄な手摺りもつけていない。このことにより入居者が自ら工夫して生活されるため、ADLの維持に結びついている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家をほぼそのままの状態を利用しており、それぞれの居室には昔から自宅で使っていた家具を多く持ちこみ、入居者は昔からここに住んでいるかのように居心地よく落ち着いて暮らしている。		